

(A)ティッシュ・コンパクト化

更新日 2026/3/2

①プラスチック使用量(フィルム)の削減率

	削減率
ネピア プレミアムソフト180組 (現:ネピアティッシュ180組)	5.9%
ネピア ネピネピ200組	8.9%
ネピア ネピeco200組	8.9%
ネピア ネピネピ150組	13.0%

※23年度の出荷実績に基づき、現行および変更後のフィルム面積による削減率を試算(プレミアムソフト/ネピネピ200組/ネピネピ150組)

	削減率
ネピア ネピネピソフトパック150組10コパック	5.9%

※ネピネピソフトパックは初回生産・出荷後にコンパクト化を実施したため、当該サイズを使用。25年度下期の計画数量を元に試算。

②外装箱の紙使用量の削減率

	削減率
ネピア プレミアムソフト180組 (現:ネピアティッシュ180組)	6.4%
ネピア ネピネピ200組	4.3%
ネピア ネピeco200組	4.3%
ネピア ネピネピ150組	12.2%

※23年度の出荷実績に基づき、現行および変更後のフィルム面積による削減率を試算

	削減率
ネピア ネピネピソフトパック150組10コパック	100.0%

※新商品のためネピネピ150組(ボックス)を比較対象として(カートンからバイオマスフィルムに置換)試算。25年度下期の計画数量を元に試算

③トラック積載量増加によるCO₂排出量の抑制率

	抑制率
ネピア プレミアムソフト180組 (現:ネピアティッシュ180組)	25.0%
ネピア ネピネピ150組	25.0%
ネピア ネピネピ200組/ネピeco200組	11.1%

※トラック輸送時のCO₂排出量は、トラック満載時・積載効率の従来品比から算出。(当社試算/23年度比較)

※プレミアムソフトおよびネピネピ150組は総ケース数増加、ネピネピ200組は総パック数増加による積載効率向上。

※輸送トラック1台あたりのCO₂排出量を固定値に、リニューアル前後の総パック数による削減率を「CO₂排出量」として算出。

	削減率
ネピア ネピネピソフトパック150組10コパック	44.4%

※新商品のためネピネピ150組(ボックス)を比較対象として(カートンからバイオマスフィルムに置換)試算。25年度下期の計画数量を元に試算

※ボックスは5コパック、ソフトパックは10コパックのため単品パック数比較による積載効率を比較。